



# 県病医療ニュース

病院機能評価3rdG:Ver2.0認定病院

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係



※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら

眼科

## 眼科診察室をリニューアルしました!

すでに受診された方はご存知のことですが、眼科診察室の中を以前のオープンスペースから「検査室」「診察室」「処置室」とそれぞれ区切られたスペースに改装リニューアルしました。これまでの眼科診察室は私が研修医として赴任した25年以上前から変わっていませんでした。

オープンスペースの診察室は患者さんの誘導や介助に便利なことも多いのですが、患者さんへの説明が他の方に筒抜けになってしまいプライバシー保護の観点から問題が多く、時代にそぐわないものになっていたことから2023年11月に4日間かけて工事を行いました。

検査機器の配置変更によって患者さんに戸惑いを感じさせたり、「診察室」が今までより少し手狭になったため車椅子の患者さんや付き添いの方に窮屈な思いをさせたりと不自由な面もありますが、「診察室」が個別スペースになったので診察中の患者さんの顔は見えない状態となり、プライバシー保護の面では概ね良好な印象です。2024年4月以降も医師2人体制が続いていますが、3人体制に戻ったときのために診察室を多めに確保しています。

診療の「室」が変わっただけで診療の「質」は変わっていない、(質は落ちていない)と評価されるよう、日々精進し今後もお役に立てるよう頑張っていきたいと思っています。

(眼科 部長 山田 喜三郎)



中待合室



診察室



検査室



処置室(処置用顕微鏡とベッド)

※掲載内容の詳細は各科外来・各病棟でお尋ねください。

(裏面をご覧ください)

## がん薬物療法看護外来を開設しました

がん薬物療法(抗がん剤治療)はがん治療の3本柱の一つです。治癒や延命、症状緩和などの効果が期待できる一方で、ひとによっては副作用症状も起きます。副作用症状の程度により生活に支障をきたしたり、生活の質(QOL)が低下したりするだけではなく、治療の継続にも影響を与えます。そのため、副作用症状が少しでも軽くなるように対処することが重要となります。

抗がん剤による副作用症状の中の一つに皮膚障害(皮疹や乾燥、皮むけ、皮膚のかゆみ、爪の周囲の炎症、皮膚の亀裂など)があります。皮膚障害は生活に与える影響が大きいだけでなく外見上の変化も伴うことがあるため、患者さんにとって苦痛な症状です。しかし、適切な時期に適切な皮膚のケアを行うことで、皮膚障害の出現を予防したり、症状の悪化を防ぐことに繋がったりすると言われています。そこで当院では2023年8月末に、抗がん剤治療を行う患者さんにご家族の方を対象に、皮膚のケア方法を学んで自宅で実践できるように支援するための「がん薬物療法看護外来」を開設しました。顔や体の洗い方、保湿剤の塗り方、皮膚障害を避けるための生活の工夫などを、看護師と一緒に実演しながら学んでいただきます。また、皮膚障害が出現した場合の手当の方法についても指導を行っています。

### ◆看護外来の対象となる方

皮膚障害が出やすい下記の抗がん剤を開始する患者さんにご家族の方

	抗がん剤名(商品名)
内服薬	イレッサ、タルセバ、ジオトリフ、タグリツソ、カペシタビン、ティーエスワン など
注射薬	アービタックス、ベクティビックス、ドセタキセル など

\* 2024年4月時点では、呼吸器腫瘍内科と乳腺外科で治療を行っている方のみが対象です。  
今後、対象となる診療科を拡大していく予定です。

### ◆看護外来の対応日

月曜日の13時～16時(原則予約制です)

がん薬物療法看護外来の受診を希望する場合は、おかけの診療科の医師または看護師にお問い合わせください。

(がん化学療法看護認定看護師 東田 直子)



看護師ほか医療スタッフの  
臨時職員を募集しています。  
詳しくはこちら